

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年10月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873900526
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホームいっしん館 霞ヶ浦
所在地	茨城県かすみがうら市宍倉5200-38 (電話) 029-898-3649

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年7月8日	評価確定日	平成20年11月5日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 6 月 1 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15年 10月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤 18 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	19.5人

## (2)建物概要

建物構造	木造造り
	平屋建て1階及び 2階建ての1・2階

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	運営規程に基づく
敷金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100円	

## (4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	25 名	男性	10 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院・はせがわ歯科医院・ストレスケアつくばクリニック
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街から少し離れた栗畑や緑が多い、季節の移り変わりが1年を通し感じられる環境の良い場所に当ホームは建てられている。職員はみな、明るく笑顔であり利用者が安心して楽しく生活できるよう、日々支えている。両者ともコミュニケーションもよく、活気がある。個々の個性を大切に考え、その人らしく送っていただくことを第一に考えケアの提供を心がけている。地域や家族との連携を図りながら交流の機会を積極的に作っている。今後期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流について、積極的にホームから働きかけを行うよう努めてきた。行事に参加したり、小学校とお互いに連絡をとりながら、連携を図っている。現在も全職員で様々な検討をしながら継続している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニットごとに職員が記入し、その後管理者が目を通し作成されている。出来上がった自己評価は全職員が閲覧している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に会議は開催されており、家族や地域、行政、民生委員にホームの状況やメンバーと意見を参考にしながら理解が深められるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情があった場合の体制は整っており、家族へも口頭で伝えている。アンケートの実施を試みており、家族からの意見や希望などをケアやホームの運営に活かせるよう努力が伺える。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	イベントに地域の方を招待したり、小学校との連絡を積極的に行い交流を図っている。ホームの便りを地域にも配り、近所の方との関係作りにも取り組んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を深める機会を設けながら、独自の理念が発信できるよう取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどを活用し、全職員で理念を基に話し合いを行い、共有できるよう努めている。毎月1度の会社の運営会議でも理念について話されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会加入は難しい状況だが、地区長への働きを行いホームイベントの情報を回覧に入れてもらったり、小学校との交流をお互いに連絡を取り参加に向け取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に関しては各ユニットで職員が意見を出し合い、それらを主任や館長がまとめ、作成に至っている。職員は外部評価の意義を外からの視点として日々の介護の振り返りと考え、理解をし、改善に取り組んでいる		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催し、地域、家族、行政のメンバーの方から意見やアドバイスを貰いながらサービス向上に繋げ、活かせるように努力している。		

茨城県 グループホームいっしん館霞ヶ浦

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の懇談会に出席し、情報を貰ったり、相談員や市の開催するヘルパー養成の実習先となっている。市に向き、働きかけを積極的に行い、市との連携を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日々の暮らしぶりや健康状態について、月に1回利用者一人ひとりの独自のホーム便りを送付したり、ホームのイベントへの参加をお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情があった場合の体制作りは整っており、苦情に関する責任者もいる。家族からの率直な意見や要望をケアや運営に反映できるよう、アンケートの実施を行うなどの取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限としており、利用者との関係作りが出来ている場合には配慮として異動の延期なども可能とされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での社内研修や外部研修にも希望を取り参加できる。法人内のホームとの情報交換研修もあり、ホーム間でスキルアップを目指している。		今後は研修参加後の報告書などを作成し職員間で更に情報が共有できることを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流の機会をもっており、情報交換などを行っている。	○	今後も交流の機会を継続し、管理者のみならず、職員も他ホームの見学などに同行し活動されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験利用や事前調査などを行い、サービスの利用につなげている。見学も随時行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの個性を大切に、立場を尊重しながら関係を築いている。利用者には教えてもらうことが多々あり、互いに支えあう生活が送れるよう努力している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を把握できるよう、ミーティングや申し送りにて話す機会を職員は設けている。1対1で話せる環境づくりや話し方の工夫を行い努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との話し合いを行い、意見などを取り入れながら介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回、利用者に対しての話し合いの時間を設けての話し合いや、半年に1度の計画の見直しを行っているが、介護計画と日常のケア場面の気付きと混合した見直しとなっているため、判断した。	○	介護計画に沿った見直しが今後行われ、新たな計画がケアに反映されていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の身体状況に応じて、いつでも病院受診が出来たり、家族の相談に応じた対応ができる体制となっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科や歯科の往診や、24時間対応の医療機関を確保している。これまでのかかりつけ医の受診も可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	マニュアルの作成をしており、看取りについての同意書も得ている。利用者の状況により、その都度家族と話し合いを行いながら、今後の検討などを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いや保管は徹底されている。また、家族からの同意書も得られている。利用者本人の意思の確認をしたり、職員は一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあった日々の暮らしが出来るように支援している。時には利用者とは話し合ったり、納得してもらえるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力を活かしながら、準備や片付けなど出来ることを行ってもらっている。食事が楽しめるように季節感を盛り込んだ献立、食事時には楽しく会話しながら支援をされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日好きなときに入浴ができるような体制となっている。利用者の体調によっては、介護用品を活用しながら、快適な入浴となるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節の行事やレクリエーションの実施、一人ひとりの生活歴から利用者に向けた役割や趣味の継続も行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や買い物、ドライブなど日常の中で外に出る機会を多く設けている。敷地内の広場にある東屋の活用もされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠しておらず、夜間のみ防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は救急救命法の研修が終了されており、年2回の避難訓練も実施している。夜間想定訓練も消防立会いで行うことになっている。		今後は地域に向けて、どのように共に協力しあえるか、職員全体で働きかけを工夫されることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは毎日行っており、ケース記録への記載がされている。献立は管理栄養士に指導を受けながらカロリー等の把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の部屋の設置やソファを置き、自由に昼寝などが出来るような空間となっている。利用者はそれぞれ、思い思いに過ごされていた。居心地よいと伺える。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで大切にしてきた物や、馴染みのものがあり、個性豊かな居室となっていた。		